

施策評価シート(平成24年度評価実施)

担当部課名

福祉課

関連部課名

基本目標	笑顔で安心して暮らせるまちづくり【健康・福祉】
施策名	生活自立支援
<p>日々の生活に不安を感じている生活困窮者の自立を支援するために、生活保護制度の的確な運用を図るとともに、関係機関との連携を通じて支援体制や相談窓口の充実などを図り、生活と就労の両面から支援するための取組を推進します。</p>	
<p>施策が目指す蒲郡市の将来の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来の蒲郡を担う若年層を中心に、自立への第一歩を踏み出しています。</li> <li>● 日々の生活に不安を感じず、誰もが安心した生活を送っています。</li> </ul>	

◆ 具体化した施策の取り組み実績

1 生活保護制度の適用

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
被保護世帯数	451	445	-
被保護者数	592	569	-
ケースワーカー数	5	6	6

2 自立支援体制の充実

項目	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度計画
就労支援事業	-	就職者19人／対象者27人	-

◆評価指標

指標名	区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	将来目標
保護率	目標値		-	-	-
	実績値	7.32	7.07		平成32年度
ケースワーカー 担当世帯数	目標値		-	-	-
	実績値	90世帯	74世帯		平成32年度
就職者数／対象者数	目標値		-	-	-
	実績値	-	70%		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
保護率	(被保護者数／人工)×1,000
ケースワーカー担当世帯数	被保護世帯数／ケースワーカー数
就職者数／対象者数	就職者数／対象者数

◆指標の分析

ケースワーカー担当世帯数の減少(ケースワーカーの増員)、就労支援事業の実施により、生活保護者への自立支援の充実が図られ、保護率の減少となった。

◆今後の方針

施策の課題  
引き続き生活保護者の自立支援(主に稼働年齢層)に努めるとともに、丁寧な面接相談を実施していく。

今後の施策展開  
・自立支援プログラムの推進  
・若年者への早期自立支援プログラムの検討

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	A: 現状のままでよい。
	コメント	生活保護制度自体に問題が生じてきているため、ケースワーカーの業務が多面的に広がっている。人材確保が今後の課題。

部長評価	施策の進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり順調に進行している。
	コメント	平成20年秋のリーマンショック以来、現在も生活保護世帯は増え続けており、本市においても例外ではない。10年前の200世帯が平成23年度には445世帯と倍増している。こうした生活困窮者の生活と就労の両面から相談に応じ、どのように支援して自立に導くか、日々頭を悩ませながら真剣に取り組んでいる。この制度は憲法が保障する最低限度の生活を営む権利に基づくものであり、減らそうと思っても減らせるものではないが、最近の傾向として生活保護需給申請の若年化が顕著である。そこで平成23年度は就労支援事業を強化し対前年比6人減と成果を得たが、引き続き稼働年齢層を主とした就労支援、早期自立支援プログラムを推進する。今後の課題は、生活保護制度の的確かつ安定的運営を確保するため、経験豊かなケースワーカーの人材確保が必要なことである。

施策に属する事務事業一覧

総合計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く 事業費(千円)	人件費 (千円)	人工	総合 評価	事業の 種別	市長 コメント	実施 計画
1-6	福祉課	127	民生児童委員事業	11,653	2,064	0.23	B	7	-	X
1-6	福祉課	136	住宅手当緊急特別措置事業	6,672	3,741	1.15	A	7	-	X
1-6	福祉課	146	生活保護費給付事業	933,212	46,366	9.05	A	7	-	X